

シリーズ
かほく
市の文化財 No.25

天然記念物 編 八野小東間神社社叢と多田八幡神社社叢

幼いころドングリを拾って遊んだという経験はありませんか？今回は、そのドングリにちなみ、市内でも山側にある、市指定文化財の「八野小東間神社社叢」と「多田八幡神社社叢」について紹介します。

そもそもドングリとは、ブナ科とりわけコナラ属の樹木の果実の総称であり、縄文時代にはアクを抜くことで食用していたという歴史があります。加えて、縄文時代の人たちは、ドングリなどの果実の安定供給のため、林や森を管理していたのではないかともいわれています。その一方で現代では、ドングリが採れるような原生的な樹木の群落も少なくなってきたともいわれています。

「八野小東間神社社叢」

と「多田八幡神社社叢」は、ともに椎の木（種類・スダジイ）が原生的に群生している場所です。この椎の木もドングリが採れる木であり、なかには幹周りが2.53を超える大きな椎の木も見られます。そして、前述のように原生的な群落が県内でも少なくなってきたおり貴重であることから、指定され、八野区や多田区の人たちが大事に管理しています。

今の季節は、青々とした葉を茂らせている季節です。大きく育った立派な椎の木の間を見に行かれていますか？



多田八幡神社社叢



八野小東間神社社叢

※社叢とは、神社の森や神社に茂げる木々のこと